

所信を表明

# 点検 新たなスタート 新たな飛躍

平成15年5月市議会臨時会が、5月23日に開かれ、小林市長が所信を表明しました。本号では、その内容についてお知らせします。



成田市長 小林 攻

## 『新生成田の建設』に向けて

平成15年5月成田市議会臨時会の開会にあたり、私の市政に取り組む所信の一端を申し上げ、議員各位ならびに市民の皆さんのご理解とご支援をお願い申し上げます。

議員各位には、先般執行されました第15回統一地方選挙におきまして、市民の熱い期待と信頼を得て、当選の栄を担われ、心からお慶びを申し上げます。

私も市民のご支持を得て、五代目の市長に選ばれ、これから4年間、皆さま方とともに成田市政を預かることとなりました。もとより浅学非才の身ではありますが、その責任の重さを受けとめ、全力を傾注し、市政に取り組んで参りますのでよろしくお願いを申し上げます。

さて、これからの市政を考えますと地方分権、

市町村合併問題は、背景にある地方財源のあり方半世紀前の枠組みにある市町村を二十一世紀という新しい時代にふさわしい形に再構築するという構造的な課題もあり、これを乗り越えるには相当な覚悟と努力が必要であります。また、バブル経済の崩壊から、失われた10年といわれるような長期の不況は、大きな雇用不安を招いておりますように、わが国のシステムは、深刻な制度疲労を起しているといっても過言ではありません。したがって、諸制度の根本的な構造改革が急がれております。

同時に、人々の価値観の多様化、急激に進む少子高齢化、さらに環境問題やIT革命、また社会モラルの低下と犯罪の低年齢化、凶悪化による社会不安の増大など、一朝一夕には解決し難い行政課題が浮上しております。これは、成田市においても例外ではありません。

その上に成田市は空港の完全化という大きな課題もあります。

先日、5月20日には成田空港開港25周年を迎えましたが、完全化と騒音対策、地域振興、更には空港公団の民営化など、新たな対応も求められております。

また、来年は成田市制施行50周年に当たります。そついう意味からも、今大きな節目であると判断されます。これまでの考え方ややり方だけでは、もはや通用しない時代に直面しております。

こういう時にこそ、地方自治の原点に立ち返って、市政の総点検を行うとともに、新時代に向けて、何を改め、何を守り、また新たに何をすべきかという視点に立った取り組みを行い、『新生成田の建設』に努力していきたいと思っております。

## 市民が主役のまちづくり

私は市政を進めるにあたって、『市民が主役のまちづくり』を基本理念として、『市民にとって身近な市政』、『市民に分かりやすい市政』、『市民が納得する市政』を推進して参りたいと考えております。

そのためには、タウンミーティングを開催し、直接市民の意見を聞く機会の拡充を図り、徹底した情報開示、スピードをもった市民サービスの充実に努めます。

また、例えば公募型の市民委員会というようなものを設置し、企業の経営感覚を推進し、時代と



すべての市民が主役です

## 七つの重要課題

次に当面する七つの重要課題について、申し上げます。

- 1、 空港問題
- 2、 まちづくり
- 3、 環境問題
- 4、 福祉
- 5、 産業の振興
- 6、 教育
- 7、 市町村合併

### 1 成田空港の完全化による『空港問題』の解決

まず、一点目は、空港問題についてであります。成田空港を国際拠点空港にするためには空港の完全化を図ることが不可欠であり、この解決こそが私の最大の政治課題であります。このためには、関係機関との密接な連携を図り、用地問題の解決だけではなく、騒音問題の解決、騒音地域の振興も併せて行う必要があると考えております。

特に、先般、成田市が国際空港特区の指定を受けましたことは、空港を活用した空港周辺の地域づくりを推進するにあたり、大変意義深く、その活用策を十分検討して参りたいと考えております。



国際拠点空港を目指して

また、新型コロナウイルス（SARS）の国の対応が気になるところでありますが、社会の緊急事態に対する危機管理の面において、空港所在都市として最前線窓口にある本市の役割が、これからの重要課題でもあります。

## 2 駅前整備や成田新高速鉄道を生かした『まちづくり』

二点目は、まちづくりについてであります。

JR成田駅前整備については、現下の社会経済情



整備が待たれるJR成田駅前

勢にかんがみ、再開発事業の早期に実現が可能な手法の検討を行って参りたいと考えております。また、都市計画事業および幹線道路の整備については、引き続き国庫補助等の財源確保に努めながら計画的かつ早期の完成を目指して参りたいと考えております。

また、成田新高速鉄道については、成田空港と都心との交通アクセスの改善、成田空港の首都圏における国際拠点空港としての地位の向上に大きな役割を担う重要な空港機能の一つであり、また、成田市が空港と地域の共生のもとに国際空港都市として発展するための基礎であり、地域鉄道として市民の利便性向上に大きく貢献するものであると認識しております。このような観点から、鉄道の早期完成を目指すとともに、新駅の設定など、

関連するまちづくりを促進して参りたいと考えております。

## 3 『環境問題』への取り組みは新たなごみ処理施設の建設から

三点目は、環境問題についてであります。

私が、最も喫緊の課題として取り組むべきものとして考えているのが、ごみ処理施設の建設であります。

現在のごみ焼却場は既に老朽化が進み、処理能力からもまた環境対策からも、早期に新たな処理施設の建設が必要であります。広域化計画、建設場所、資金計画などについて検討し、事業の推進を図って参りたいと考えております。

## 4 多様化する市民ニーズに対応した『福祉』の充実

四点目は、福祉についてであります。

市民一人ひとりが健康で充実した市民生活を送るため、福祉の充実は、大変に重要であります。少子高齢化社会の進展とともに、やがては、老人が老人を見る老老介護の時代がくるともいわれております。

このような中で福祉の更なる充実を図るには、社会全体で互いに支えあうというシステム作りが必要となって参ります。そこで、今後さらに多様化する市民ニーズに対応するため、ボランティアの協力、NPOとの協働も重要となってくるものと考えております。



地域振興の核となる成田空港

## 5 成田空港のポテンシャルを活用した『産業の振興』

五点目は、産業の振興についてであります。最近のわが国経済は需要低迷、高い失業率に代表される厳しく長い不況下にあります。成田市は成田国際空港と成田山新勝寺という二つの大きな核を有しております。特に、人・物の国際交流拠点である成田空港のポテンシャルを十分活用することによって、産業の振興を一層推進することが可能であると考えます。

また、農政については、地産地消の推進を図るとともに、成田市農業センターを拠点として、農地流動化の推進による担い手の育成・確保、堆肥化事業の推進、さらにポストハーベストなど食品の安全性が問われている今、エコシステムによる農業の振興にも取り組んで参りたいと考えております。

## 6 国際教育推進特区を活用した特色ある『教育』の推進

六点目は、教育についてであります。学ぶことは、生涯を通じて必要な事柄であります。特に学校教育、それも義務教育で児童生徒のやる気が形成されるといわれております。そこで、やる気の出る『わかる授業』『おもしろい授業』を現場である学校を中心に教育委員会と密接に連携して推進してまいりたいと考えております。

また本日、成田市内全域を国際教育推進特区とする認定書が交付されることとなりまして、児童生徒の適性や発達段階に応じながら、英語によるコミュニケーション能力の育成を図るため、小学



成田は英語教育の最適地

## 7 『市町村合併』への取り組みは市民の意向を踏まえて

七点目は、市町村合併の問題であります。市町村合併は、避けては通れない大変重要な行政課題であります。

しかしながら、合併を進めるに当たっては、その前提として市民が理解できる情報を提供し、かつ開示して、市民の意向を踏まえながらさまざまな角度から検討し、将来に悔いを残さないよう慎重に取り組むことが肝要であると考えております。

最後に、わが成田市にとりましては、大きな時代の流れの中で厳しい選択をしなければならぬことも多々あると考えておりますが、『新生成田の建設』に向け、職員と一丸となって市政を全ういたしたく、議員各位の絶大なご支援ならびに市民の皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。そして私の所信表明といたします。